

第5回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

開会挨拶

林孝二郎（千葉市副市長）



皆様おはようございます。

千葉市の副市長の林です。主催者の一員であり、千葉市を代表して一言ご挨拶をさせていただきます。

この里山シンポジウムはすでに5回目を迎えるということですが、このような有意義な催しをようやく千葉市で開催できましたことは喜びにたえません。関係者の皆様方のご努力に深く敬意を表する次第です。

里山やみどり、森林の意味が、地球温暖化と等しく世界的な規模で意味と関連性が検討されているところですが、林業と農業も相変わらず難しい問題を抱えています。里山をはじめ緑の保全が重要な課題であり、行政を含めて市民の皆様方と一緒に進めていく大きな課題です。

千葉市でも、この森林の整備と活用は市政の重要な施策となっており、市民や林業所有者、行政が一緒になり、豊かな森づくりをめざして各施策を展開しています。

平成13年からは地域住民と都市住民との多様な交流の場を目指して、行政による共同作業により、身近で多様な里山を里山地区に指定しました。里山シンポジウムでも使われる「いずみの森」など3ヶ所を指定して、里山保全の推進を図っています。

また、里山とともに千葉市の原風景の一部を構成している谷津田の多様な生態系を保全しようと、平成15年からは谷津田の自然の保全指針を策定し、全域的に谷津田の保全も開始しているところでございます。

なかでも代表的な“大草”の谷津田では、近隣の小学生が学習活動の一環として、住民の方々と田植えを行うなど、保全活動運動が広がりだしております。

さらに、里山の保全の動きを町の緑の保全に役立てたいと“町山”づくりという活動にも取り組みはじめています。所有者、周辺の地域の方々、行政が一体となって“町山”を保全し、活用していこうとしています。コンサートなども開かれ、諸々の施策を通じて町山の保全を実施していきます。地元の方々やボランティアの方々と連携しながら、故郷の原風景であり、市民の共有財産である里山・町山を守っていきます。

大切な自然を、次世代を担う若者や子供たちに引き継いでいこうと全力をあげて頑張っているところでございます。

このような状況で、県内各所で里山保全にかかわり、各施策を展開されている方々をお迎えて、里山シンポジウム本市で開催できることは意義深いことでございます。

このシンポジウムを契機にして、さらに“里山”“町山”が市民に広がっていくことを期待しております。

最後に、大変長い1日、中身の濃いシンポジウムが開催され、実り多く里山の保全と活用成果を上げられることを願って挨拶とさせていただきます。